

## 令和元年度 第4回子ども・子育て会議 会議録

- ・開催日時 令和2年1月20日（月）午後1時30分～午後3時
- ・開催場所 燕市役所 会議室301
- ・出席委員 小池会長、田邊副会長、関戸委員、玉橋委員、長谷川委員、若林委員、星野委員、瀬戸委員、宮路委員、田中委員、本間委員、鈴木委員、富樫委員、山崎委員
- ・欠席委員 高山委員
- ・事務局 遠藤教育長、宮路教育次長、白井子育て支援課長、加藤課長補佐、高山課長補佐、大西副参事、大塚副参事
- ・会議次第
  - 1 開会
  - 2 教育長あいさつ
  - 3 会長あいさつ
  - 4 議題
    - (1) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画（素案）に関するパブリックコメントで寄せられた意見の要旨とそれに対する市の考え方について
    - (2) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対するご意見・ご質問への回答について
  - 5 その他
  - 6 閉会

### 1 開会

<事務局より開会のあいさつ>

<委員交代の報告（日本労働組合総連合会新潟県連合会 県央地域協議会燕支部長 西川委員に代わり山崎委員）>

<交代による新任委員の挨拶>

### 2 教育長あいさつ

- 年が改まって最初の「子ども・子育て会議」の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
- 令和として初めての新年を迎え、まずもって皆様方のご健康・ご多幸を御祈念申し上げます、併せて、旧年中、ひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本年も燕市教育委員会職員一同、一丸となって、市民の皆さまに対する、さらなるサービスの向上に向け、気持ちを新たに取り組んでまいり所存である。市民へのサービス、あるいは子どもたちの健やかな成長を意識しながら、きっちりやっていきたい。
- そのためには、こうした委員会でお気づきの点をお聞かせいただくとともに、何か気が付いたことがあれば電話一本いただければ、その一つ一つが新しいものへと繋がっていく可能性があると思っている。
- 本日の会議では、先般、「第2期燕市子ども・子育て支援事業計画」の素案について、パブリックコメントを実施し、その寄せられたご意見の要旨とそれに対する市の考えについて説明をさせていただく。
- 続いて、先の第3回の会議で、委員の皆さまから寄せられたご質問やご意見につい

て、修正点・変更点の説明をさせていただく。そして、この「第2期燕市子ども・子育て支援事業計画」策定作業ということになるが、このスケジュールについては、12月の議員協議会でのご意見やご質問に対する回答と、今日ご紹介するパブリックコメントのものを含めて、2月下旬の市議会、議員協議会において説明をさせていただく。

必要ならば修正を加えることになるので、そういう説明をさせていただいて、3月中旬に、この子育て会議の5回目を開かせていただく。

- 5回目の会議で最終案をご提示するので、そこでまたご意見をいただきながら、完成へと近づけてまいりたい。
- 本日の会議、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。長時間の会議となるが、忌憚のない意見を出していただくこと、積極的に議論をしていただくことをよろしくお願いしたい。

### 3 会長あいさつ

- 皆さん、こんにちは。小池です。昨年に引き続き、今年もどうぞよろしくお願いいたします。
- 今ほどの教育長の挨拶のとおり、皆さんのお力を借りながら、ようやくここまで形が整ってきた。今日、そして3月の中旬というところが、最後の私たちが意見を反映させることのできるチャンスになるかと思う。幸い、皆様のご意見を踏まえながら、ここまで持ってくることができたので、そんなに大きな修正はないかなと会長としては思っている。
- それでもやはりまだ、ここが足りないんじゃないかという所も出てくるかと思うので、今日も皆さん、一緒に目を通していきながら忌憚のないご意見をいただければと思う。どうぞよろしくお願いする。

(教育長退席)

### 4 議題

- (1) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画(素案)に関するパブリックコメントで寄せられた意見の要旨とそれに対する市の考え方について

<事務局から資料1に基づき説明>

<質疑応答>

(会長)

委員の皆様から意見や質問があれば伺いたい。

(委員)

一人の方から19件の質問ということで、細かい重箱の隅をつつくような質問もあるが、この方の質問がなければ0ということになるが、パブリックコメントというのは出して0なら0で良いのか。

(事務局)

▶ これまで0の計画もあった。

(委員)

一番最後に「この制度はアリバイ作りに使わないでほしい」という表現が適切かどうかかわからないが、やはりこういうことを市民は思っているのではないかと思う。何よりも計画というのは一通りの体裁を整えたものができるとは思いますが、達成率、達成指数ということのほうがより大事な訳で、そちらのほうに重点をおくとか、力を入れる、そういう姿勢が大事だと思う。

(事務局)

▶ 今年6つの計画をつくっているが、春から始めて今年の3月までの間に計画をつくることになり、それらのパブリックコメントの期間というのがだいたい重なってきてしまうのは仕方ないことと考えている。今、委員からいただいた達成目標、これからやっていくことについて、きちんと進めていきたいと考えている。

(会長)

しっかり見ていただいた方が一人いたというのは正直な感想であるし、どうしても会議に参加している者は、ここでずっと話をしているのでなかなか気が付かないとか、それを第三者から見てどういうふうに見えるかという意味では、今回きちんと見ていただいて非常にありがたかったというふうに受け止めている。

それでは、事務局でこういう対応をするということについて、特に意見がなければ、進めさせていただきたい。

私から、これはスペースの問題もあるかもしれないが、37頁の「子どもの貧困」の所で、なぜひとり親を対象にアンケートをしたのかについては、市の案でも、確かにこれだけ社会的な課題になっているというはあるが、加えて、今、ひとり親家庭のだいたい半数の方たちは相対的貧困層にあるから、燕市はあえてひとり親を中心とする低所得家庭の方たちを対象に調査を行ったという流れだと思うので、その辺がもう少し見えると良いと思った。

(委員)

資料9頁の「人口の自然動態の推移」の所で平成29年、2017年に出生数が580となっているが、燕市は確か2017年は496になったのではなかったか。それがなぜ580なのか。平成30年に496になって、31年はまた500になったのか。

(事務局)

▶ 平成29年が580人の出生で、30年が496人で、また31年が500人というふうに、一年間の出生数となっている。いろいろな出生数の集計の仕方があるが、これは4月1日から3月31日までの出生数である。確か、県がやっているものは10月から9月になるが、これは市民課で集計している年度の数字になっている。

(委員)

なるほど、それで多少ずれがあるということか。では、31年は持ち直したということか。若干の違いとはいえ、400台と500台ではイメージ的に大分違う。

(事務局)

▶ これは、この年の3月31日現在の数字になるので、31年度ということになる。

(委員)

各年の3月31日現在ということは、やはり4月1日から翌年の3月31日までの数ということではないか？

(事務局)

▶ はい、30年の4月1日から31年の3月31日までの一年間という意味になる。

(委員)

41 頁にも似たような「将来推計人口の推移」というのがあり、これは 31 年度の 4 月 1 日現在の数字が 483 になっているが。

(事務局)

▶ 後ほど確認させていただきたい。

(委員)

どちらでも良いが、一人でも増えたのと減ったのでは大分意味が違う。

(会長)

ここのデータの使い方は齟齬がないようにというか、わかるように整理していただければと思う。それでは、またお気づきの点があれば最後にでも、ご意見をいただきたいと思う。

## (2) 第 2 期燕市子ども・子育て支援事業計画(素案)に対する意見・ご質問への回答について

<事務局から資料 2 に基づき説明>

<質疑応答>

(会長)

何か気づいた点や意見質問があるか。

(会長)

特になければ、前回の会議での意見は反映され、今、事務局から説明があった通りで修正をさせていただいているということではよろしいか？今日の議題は、この 2 点だけだ。今 2 つ目の説明をしていただいて、改めて 1 つ目について、あるいは、まだ他の点でも目を通して気づく点等があれば、ここはどうなっているのかなどの意見を出す時間はあるかと思うがいかがか？

(委員)

では質問の 10 番目、「児童研修館運営事業」について、児童研修館の職員の方たちは一生懸命、いろいろな講座を開設している。私は時々、絵本を借りに行くが、大勢の方が利用している。そういう時ばかりでなく、何か災害時の特別な講座の時も、すごく盛り上がっている。それで、評価は B だが、私の個人的な考えでは A ではないかと思う。それで、評価項目は何項目かあって、職員の方も入ってその項目ごとにチェックをして、総合的に概ね順調の 90%~100%の間ということで B になって、少し遠慮して評価が付いているのではないかと思った。館長は「そういう評価をされているのを私はわからない」とのことだったので、この評価の結果は、研修館の職員の方に伝えてあるのかということも聞きたくて、それも書いたが、ここには割愛されている。回答には「事業報告書や職員の意見も参考にした」と書いてあるので、職員の意見も評価の中に入っているとは思いますが、実際に皆で会議をし、現場の声も聞きながら評価したら良いのではないかと思った。

(会長)

資料 2 の (10) の 26 頁である。これが B になっているのは、何か判断基準があったのかと思うのだが、事務局から何か説明はあるか？

(事務局)

➤ 評価の根拠・分析欄に記載のとおり、事業としては申し分なくやっているが、来館者数が若干その目標としていた5万人より少なかったという部分で、AではなくBにさせていただいたという経緯がある。また、こどもの森の職員との共同での評価ということについては、また今後の参考にさせていただければと思っているので、今後活かしていきたい。

(委員)

そうしていただければ、一生懸命しておられる職員の皆さんも励みになると思う。よろしくお願ひしたい。

(会長)

ありがとうございます。この事業評価はなかなか難しい所があって、実際は上手く機能していたとしても、その最初の目標設定を、例えば参加人数とかに設定してしまうと、やはり齟齬が生じるのかなとは思っている。でも、できていることはきちんと評価したほうが良いとよくいわれるので、できていることをきちんと見ていくということも大事なことだ。またどうぞ反映させていただければと思う。せっかくの機会なので、他にないか。

(委員)

パブリックコメントの5頁の11番目に「眠育」について書いてあるが、特に計画の修正もない。私も特に今回書くことでもないのかなとは思っているが、令和6年の次の計画の時に備えて、今回は「眠育」という項目を作らなかったようだが。

(会長)

資料1のほうか。

(委員)

パブリックコメントの質問の5頁で、計画書では34頁になる。「眠育」がなくて「食育」で終わっている。市の考え方も「眠育」は大事で、各学校で取り組んでいると回答として書かれている。

今、SNSがどこかの県では条例になったりして、ちょっと問題みたいになっているようだが、次の計画を立てるとき、何年後かには問題になっていくのではないか。燕市としてはどう考えていくのかお聞きしたいのと、段々SNSも低年齢化していくので、もし次の計画を立てる時に「眠育」とかSNSとか、それらを取り巻く環境についても念頭に置かなくてはならないのではという気がしていて、もしそれを取り上げるならば、この方が朝食摂取率とか睡眠時間とか書かれているが、そういう観点で記録を残しておくのも大事なことから思ったので、言わせていただいた。

(事務局)

➤ 次期の計画にということであるが、回答に記載してあるように、すべての学校で早寝・早起き・朝ごはんを実施している。しかしながら、SNSや子どもたちを取り巻く環境は、本当に目まぐるしく変化し、これがまた今後、数年先はどう変わっていくのか、見通せない状況である。こういった状況を、子育て支援課だけでなく、学校担当の学校教育課も含めて、教育委員会全体で今後の課題として取り上げていきたいと考えている。

(会長)

今の段階で、教育委員会管轄のほうの計画等に、SNSなどについて書かれたものは特にないか？

(事務局)

➤ 学校教育課で「学校教育基本計画」があるが、その中でSNSに特化した部分の

記述はない。今後どのように進化していくかわからないが、当然のことながらどんどん上書きされて、進展していくことと思うので、その時代に即したような形で、記述についても改めていかなければならないのかと思っている。

教育委員会としては、スマホは決して悪い訳ではない、そのSNSの使い方だと思うので、学校のほうと情報共有を図りながら、少しずつ児童生徒のほうに、保護者も含めて、研修会等重ねながら意識改革を図っていかなければいけないのだろうというふうには考えている。

(会長)

この「子ども・子育て支援計画」の中に盛り込める内容と、もしかすると「学校教育基本計画」のほうと、その辺の整合性というものを一緒にとっていただきながら、子どもが育つ環境の所にずれがないように一緒にやっていただけるとありがたいと思う。貴重なご意見ありがとうございました。その他、よろしいか。

(委員)

この中に記載があるのかもしれないが、例えば、全国の統計として昨年度だったかその前の統計だったか、いじめの認知件数が41万件、小学生・中学生の不登校が14万というデータが出ていたが、その件に関する質問が12月の委員会か何かでやってしたが、もう一回市内におけるものについて聞かせてほしい。

(事務局)

▶ 市内のいじめの認知件数は、今、手元に資料がないので、至急準備する。

(委員)

私はその認知件数よりも、例えば100件あったとしたら、その内の何件解決したのか、そっちのほうが大事だと思っている。

(事務局)

▶ 解決率の話か。

(委員)

それも、データがないだろうから結構であるが。また、不登校については、かなり前に13万人という数字が出て、いろいろ策を講じて、減らないで増える一方だ。子どもの数が減っても不登校は増えるばかりで、中学校を卒業してもその人たちがみんな社会復帰する訳ではないだろうから、これもいつの年度の統計か忘れたが、ネット依存が100万人とかで、引きこもりが200~300万人とか。200~300万人という統計があるのかどうかかわからないが、その件についても市内ではどうなのかと心配している。実数を報告してもらおうというよりも、そのことに対する対応・対策が、しっかりできているだろうかということを知りたい。

(事務局)

▶ いじめの件数は今手元に資料がないので、認知件数はいえないが、解決率のほうは、昨年はおかげさまで、いじめの重大事案が一件も起きなかった。したがって、解決率については、私どもに報告が来ているものはすべて解決し、つまり100%となっている。

次に、引きこもりについては、その人数は把握ができない。ただ、学校教育課で小学生から39歳までを対象に、引きこもりも含めてであるが、そういう相談窓口の一元化を図っているのだから、そこに上がってきたものについては、アウトリーチをかけながらすべて対応させていただいている。

窓口の一元化をしている所での引きこもりや不登校の解決率は7割弱くらいである。相談が来て私どもがアウトリーチをかけて、なんとか解決に至っているのは7割弱くらいの解決率になっている。

(委員)

7割の解決率というのは、不登校の子どもが不登校でなくなった時に勘定しているのか。

(事務局)

➤ はい。不登校の子が、例えば学校に、教室いきなり入ることはできないが、保健室に登校したり、心の相談教室とか、普通教室ではない所に通うことができるようになったり、そこで慣れて来たら教室に戻るといように、とりあえず学校に行けるようになったというところで、解決と捉えている。

(委員)

まあ一歩前進したと。相談があった人についてはわかったが、相談がない人についてはわからないと、その辺が、ちょっと気になる所である。

(事務局)

➤ ただ、不登校については学校のほうで把握しているので、その子たちの実数を把握している。しかし、先ほどいった引きこもりについては、把握する術がないので、あくまでもそこは相談の人数ということになる。

(委員)

教育委員会としては実数を把握できるのは小中学校だろうから、そこだけでも結構なので、やはり実数を明らかにしたほうが良いと思うし、私のいう解決について、それがもってきているのであれば、それが一番の安心に繋がるので、数字ではっきりと出ていたほうが良いのではないかと思う。

(事務局)

➤ 私どもも人数を押さえられる部分についてはしっかり押さえ、校長会などで報告して、常に学校との情報の共有も図っている。

(委員)

ここは子ども・子育て会議である。こういうところで議論する内容か。

(事務局)

➤ 場面を捉え、そういった数字も丁寧に出していきたいと思う。

(委員)

あくまでも、数字が多いから責任がどうだとかそういうことではなくて、やはり、より良い方向に進んでいくためには、実態を把握しておくことは大事だと思う。

(会長)

ありがとうございます。今、他の委員からご意見があったように、子ども・子育て会議でできることと、子ども・子育て会議と他の会議と、いろいろな所で組み合わせながら見えてくるものと、両方あるのかなと思うので、その辺をここの会議でできることと、ここではできないけれども他の所できちんと補って、全体として子ども・子育て環境がきちんと把握できるようなことを、教育委員会にはお願いしたいと思う。

## 5 その他

(事務局)

次の第5回の会議日程は、3月11日(水)午後1時30分からを予定。正式なご案内については、後ほど送らせていただく。今日ご意見いただいて修正が必要な部分は、3月11日の最後の会議でお示ししたい。

## 6 閉 会

(会長)

本日の議事はすべて終了したので議長の職を解かせていただく。

(事務局)

先ほど担当が説明した資料の中で一部修正がされていない部分があったところと、貧困の関係で会長からもご意見いただいたものを反映させて、新しいものを差し替えという形で、委員の皆様にお送りしたい。

以上をもって、第4回燕市子ども・子育て会議を閉会する。